銅・アルミ市況見通し

11月

橋本アルミ取締役
橋本 健一郎氏レポート

銅

9月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で6・0％減の6万1770㌧で、9カ月連続のマイナスだった。2カ月ぶりに6万㌧を回復したが、この9カ月間の中では最もマイナス幅が拡大した。

9月の銅電線出荷量は同10・7％増の5万7千㌧で、そのうち国内が同7・2％増、輸出が同86・3％増だった。

銅輸出は、電気銅が同35％増の6万6601㌧、銅スクラップが同6・9％減の2万5570㌧。

銅スクラップ輸出は、引き続きブレーキがかかり2019年を下回る少ない輸出量で推移している。ただ、最大輸出先の中国向けだけは、ここにきて少し増加に転じている。

一方、輸出平均単価は下落基調に転じた。ただ、急な下落ではなく依然高値圏にある。

銅輸入は、電気銅が同53・2％減の2575㌧、銅スクラップが同19％増の1万1241㌧だった。

11月銅市況予想レンジ		
LME銅セツルメント	7000～8000㌦	横ばい
電気銅建値	105～124万円	強い
為替（1㌦）	145～150円（1カ月間TTM）	円安

銅スクラップ景況予想

10月の電気銅建値は、月初の115万円から一時120万円へと上昇。その後117万円を付けるなど、高値で安定。米FRB利上げによる下落警戒感で、流通（一次問屋）在庫は少ない玉が放出され、さらに品薄となった。需要面は自動車生産の大幅回復に伴い、需要が急増すると思われる。

LME銅・為替予想

今月は「米欧の金融政策」「中国のコロナ対策（ロックダウン）」に左右される。

前者は、米国のパウエル議長が米連邦公開市場委員会（FOMC）後の会見で政策金利の終着点（ターミナルレート）がFRB（連邦準備理事会）の従来予想より高くなる可能性を示唆した。早期の利上げ停止も否定したことから次回も0・75％の利上げを行うのではないかと見ている。

ECB（欧州）は、イングランド銀行（中央銀行）も0・75％の利上げを決め、利上げ幅を前回（0・5％）から引き上げたことからECBもこれに続くと予想する。

後者は、「中国共産党大会2022」でゼロコロナ政策の継続が示唆された。このことからしばらくは現行のゼロコロナ政策が継続される見通し。

アルミ

9月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同7％減の14万9973㌧で6カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同5％減の9万3601㌧、押出類が同6％減の5万6372㌧だった。

9月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同5・8％増の6万6472㌧（13カ月ぶりのプラス）。出荷は同5・9％増の6万7673㌧（13カ月ぶりのプラス）となった。

輸出はアルミ新地金が同38・4％減の93㌧、アルミ二次合金が同24・6％減の1786㌧、アルミスクラップが同34・3％増の3万6350㌧、アルミ缶が同9・5％減の7054㌧。

アルミ輸出は、中国向けや円安を受けてスクラップが増加した。

輸入はアルミ新地金が同0・8％増の10万4846㌧、アルミ二次合金が0・9％増の8万5765㌧、アルミスクラップが同49・4％増の698㌧、アルミ合金スクラップが同11・9％減の5013㌧だった。

アルミ輸入は、内需回復から合金スクラップ以外が増加した。

11月アルミ市況予想レンジ		
LMEアルミ現物後場買い	2100～2300㌦（現物後場買い）	弱い
スクラップ	ゼロ円～プラス5円（前月最終価格より）	横ばい

アルミスクラップ景況予想

欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2200～2400㌦と低位安定。「流通（一次問屋）の入荷は自動車生産や住宅着工の低迷で少ない見通し。

需要面は中国のゼロコロナ政策の影響は残るものの、急激な自動車生産の回復により今後回復する見込み。自動車の挽回生産は進行すると期待したい。